



日本女医学会誌

公益社団法人日本女医学会
復刊第249号
2023年9月25日発行
題字 吉岡彌生

巻頭言 日本女医学会へのお誘い

副会長 藤谷宏子



厳しい夏も過ぎ、ようやく爽やかな季節となりました。

さて、私が副会長を拝命しましてから約1年が経過いたしました。まだまだ知らないことばかりで日々女医学会の素晴らしさを発見している毎日です。今回は今後入会を考えていただいている先生方に女医学会のことを知っていただくためにご紹介させていただきたいと存じます。

日本女医学会は、庶務、広報、会計、学術、ITの5部会とダイバーシティ推進、長寿社会福祉、女性の健康支援事業、HP制作、小児救急事業の5委員会があり、それぞれの得意分野で活動しています。さらに、日本女医学会会員は国際女医学会にも所属していますので国際女医学会関連の会合にも参加しています。また、日本女医学会では全科の先生方が参加されていますので、幅広く、大きな視野の下での意見交換ができます。講演会も全科の先生に興味を持っていただける女医学会ならではのテーマを選んでおりますので是非ご参加いただけたらと思います。

若い時期は、臨床に、研究に、そして年代的にも子育てなども加わり、余裕がないかもしれません。しかし、本年の総会で各賞受賞された先生方の中には小さいお子さんも同席されていました。わずかな時間でも、仕事のこと、子育てのことなどお話しするだけで新たな活力がわいてくるように思います。また、研究に対しては、吉岡彌生賞、荻野吟子賞はじめ学術研究助成も行っていますので研究費が必要になった時応募してみたいはいかがでしょうか？

そしてキャリアを積み重ね、中堅になられた先生方は仕

事では中間管理職として、また家庭でも引き続いての子育てや親の介護なども始まったり、公私ともにとっても忙しい時期にさしかかるかもしれません。そんな時一緒に話してみませんか？ 少し距離のある仲間とお話するといい気分転換になると思います。大変だからこそ、どんな支援が必要か考えてみるのはいかがでしょうか？

次にいよいよ熟年となり、管理職として活躍される時期に差し掛かるとは思いますが、悩みは尽きない人生です。日本女医学会では医師会長をされたり、それぞれの分野で大活躍されている先輩がきら星のようにいます。そんな先生方の活躍を実感したり、そのご経験や活力の秘訣など伺って、さらにパワーアップできるのではないのでしょうか？

女性医師の立場も問題はあるもののずいぶん改善され、日本女医学会創立当初の女性医師を守るための活動は少しずつ減ってきているのかもしれませんが、より充実した女性医師としての活動のために是非日本女医学会で貴重な経験を味わっていただきたいと思います。また弱い立場の方々へ寄り添う日本女医学会では一人では支援できないことも志を同じくする多くの仲間と一緒に活動できると思います。

日本女医学会ではいろいろなことが学べます。でも、何よりも楽しいのは仲間との会話であり、心の貴重な栄養です。どの年代の方も是非入会していただきたいと思います。

会員の皆さまには、周りの女性医師の方々に是非お誘いいただき、全ての女性や子供の健康と幸福のためにがんばろうとする気持ちを共有いたしましょう。

日本女医学会誌（復刊第249号）もくじ

| | | | |
|--------------------------|----------|-----------------------------------|-------------------------------|
| 巻頭言 | 藤谷宏子 (1) | 公開講演会 抄録 | 理事会議事録 (14) |
| 第68回定時総会 概要・議事・表彰 | 広報部 (2) | 「皮膚疾患の新しい治療」 小宮根真弓 (8) | 本の紹介 前田佳子 (18) |
| 受賞者の言葉 | | ハイブリッドテスト報告 磯貝晶子 (9) | お知らせ |
| 武曾恵理、角田由美子、稲垣絵海、 | | 北から～南から～⑦ 太田記代子 (9) | 長寿社会福祉事業オンラインセミナー (20) |
| 加納麻弓子、前田啓子、永田万由美、 | | 第68回定時総会議事録 (10) | 推進キャリア・シンポジウム (20) |
| 向山順子 (3) | | 国際女医学会通信⑩ 前田佳子 (11) | 寄付者一覧 / 会員動静 / 編集後記 (20) |
| 支部本部連絡会 前田佳子 (6) | | 第25回ブロック懇談会～佐賀 芳川た江子 (12) | |
| 栃木支部主催エクスカーショントークショー・懇親会 | | online 公開講演会報告 | |
| 塚田篤子、馬場安紀子 (7) | | 「日本で必要なプレコンセプションケアとは？」 樋渡奈奈子 (13) | |
| | | | 「日本女医学会アーカイブ」は紙面の都合により休載しました。 |

第68回 公益社団法人日本女医会 定時総会

概 要

2023年5月21日、第68回定時総会は定刻通り午前11時に庶務部部長 芳川た江子理事の発声のもとに開会された。青木正美副会長による開会の辞が述べられた後、総会成立が確認され、定款規程通りの会員総数の2分の1以上の出席、及び委任が報告された。これをもって総会の開会を宣言した。その後、2022年度、及びその後2023年5月2日までに物故された20名の会員に対して黙祷が捧げられた。

会長挨拶では、今回の定時総会開催にあたり協力を頂いた栃木支部会員、120周年を迎えた日本女医会を支えてきた諸先輩や会員、昨年12月開催の120周年記念式典・祝賀会出席者への謝辞が述べられた。リニューアルしたHPの説明の後、新型コロナウイルス感染症へのさらなる注意喚起と、平和を求める発信を続けていく決意が述べられた。

報告事項は、青木正美副会長より「第68回定時総会資料」に基づき行われた。

またナショナルコーディネーター報告は、前田会長から2022年6月に台北で開催された第32回国際女医会議の参加報告と、2023年3月にニューヨークで開催された国連女性の地位委員会CSW第67回の参加報告があった。

議事に入る前に、議長団の選出があり、会長一任で議長に杉本陸子会員（大阪支部）、竹並麗会員（埼玉支部）、議事録署名人に高橋英子会員（青森支部）、馬場安紀子会員（栃木支部）が任命され、議事進行がなされた。

その結果、承認第1号から第3号までが承認されたほか、報告第1号から第3号の賛同を得て、すべての審議及び報告が終了。議長団、及び議事録署名人が降壇し、引き続き各賞の表彰が行われた。

議 事

- 承認第1号 2022年度事業報告承認の件
- 承認第2号 2022年度決算報告承認の件
- 承認第3号 2024年度以降の会費値上げの件
- 報告第1号 2023年度事業計画の件
- 報告第2号 2023年度予算の件
- 報告第3号 次期及び次々期総会開催に関する件



表 彰

吉岡彌生賞（医学に貢献した女性医師部門）が、武曾恵理氏（京都華頂大学現代家政学部食物栄養学科教授・大阪支部）に授与された。

荻野吟子賞は、角田由美子氏（練馬支部）に授与された。

学術研究助成は、加納麻弓子氏（聖マリアンナ医科大学助教・神奈川支部）、前田啓子氏（名古屋大学医学部附属病院助教）に授与されたほか、最も優れた研究として稲垣絵海氏（慶應義塾大学医学部眼科学教室・新宿支部）に第7回山崎倫子賞が授与された。

第8回溝口昌子賞は永田万由美氏（獨協医科大学眼科学内准教授・栃木支部）に授与された。第5回山本纈子賞は向山順子氏（国際医療福祉大学三田病院講師）に授与された。

各賞の授与式の後、功労会員として諏訪美智子会員（渋谷支部）が表彰された。



表彰の終了後、藤谷宏子副会長により閉会の辞が述べられた。

(文責 広報部)

受賞者の言葉

吉岡彌生賞

吉岡彌生賞受賞のことば

京都華頂大学現代家政学部食物栄養学科 教授
財) 田附興風会医学研究所北野病院客員研究員

武曾恵理



この度、まことに光栄にも令和4年度吉岡彌生賞(第55回)(医学に貢献した女性医師部門)を授与されました。ご審査いただきご推挙いただいた日本女医会の諸先生方に心より感謝申し上げます。

私はひとを全人的に診ることを志し、昭和51年京都府立医科大学を卒業後、総合内科レジデントとして研修。4年後に腎臓病学を専門として京都大学第三内科に進みました。病理学教室にも出入りし、ループス腎炎の糸球体病変と液性免疫異常の研究で学位を得、フランス・パリ・ネッカー病院に留学し、腎炎惹起性 monoclonal 抗 DNA 抗体の探索研究を試みました。昭和61年に京都大学腎臓内科部問の教官に招聘されたのち、メチル化 DNA 抗体の作成を果たしました。その後、最も頻度の高い原発性腎炎である、IgA 腎症の病態解明研究へと進み、純系のモデル動物(HIGA マウス)作成とその病原性 IgA の研究を大学院生とともに進めました。

一方、難治性ネフローゼ症候群で早期に腎不全に陥る症例の治療に難渋していましたが、随伴症状である高コレステロール血症を劇的に改善する LDL アフェレシス療法により寛解導入率が高まることを確認し、臨床効果確認の前向き研究を「腎と脂質研究会」で責任者として成し遂げ、現在その効果発現機序の免疫学的解析を継続し、保険収載の対象拡大を厚労省との交渉で進めています。

さらに、高齢者で急速に腎機能低下が進む難治性血管炎に対しても、その病理診断コンサルテーション医として厚労省難治性血管炎班で参画しており、病態診断研究を続けています。

この間一貫して、腎生検病理診断を基礎とした患者さんへの対応を心がけており、常に病態解明に目を向けているかを自問しながら診療、研究、若い方への教育を継続しています。

また、平成13年に基幹研究所病院部長となつてからは部下の女性医師のキャリア形成継続の対策が急務であることを実感し、NPO 法人設立、学会の男女共同参画委員会設立、「日本女性腎臓病医の会(JSWN)」の活動継続を行っています。

その経緯で日本女医会にも入会し、本来の Sisterhood のメリットを実感しています。これまでともに歩んできた諸先生方に心よりの感謝を申しあげ、今回の受賞に際して吉岡彌生先生の志された「至誠一貫」の精神を再認識してこれからも歩んでいきたいと思っています。

荻野吟子賞

荻野吟子賞をいただき

練馬支部

角田由美子



この度第68回日本女医会総会において、荻野吟子賞を拝受いたしました。推挙し選出してくださいました先生方、及び日本女医会会員全ての先生方に厚く御礼申し上げます。

荻野吟子さんは1851年生まれ。世界最初の女医と言われているエリザベス・ブラックウェルさんは1821年イギリス生まれ。アメリカに渡ってから医学を学び、医師になり、イギリスでも活躍されています。

これらの先駆者たちは先ず、医師になるため、女性であるがゆえに多くの苦勞をされ、医師になってからも、医業のみならず、広く社会に貢献されて、女性の地位向上のため努力されています。

今私たちは、どこの国でも、これら先駆者たちの恩恵に預かり、医学を学ぶことにおいては男女の差を感じていません。職場では未だしの感はありますが。私は母校で10年間、無給医局員のまま耳鼻咽喉科を学び専門医となり、東京の片隅で開業医として約40年間過ごし、その後も検診などで医業に携わってきました。開業医の良いところは医師が女性であることを患者さんが分かった上で来てくださることです。

医業の傍らボランティアとしてカンボジアに関わってきました。「ちびた鉛筆一本でも紙切れ一枚でも集めています」の記事を目に留め、医師会仲間呼びかけて余っている文房具を集めることから始めました。

21世紀のカンボジアを支援する会のメンバーとして小学校の建物を2校、水道やトイレ棟などをいくつか、また里親としての支援もしています。キラキラ目を輝かせている子どもたちに会うことはとても楽しみです。

コロナ禍のためこの数年は子どもたちに会えないですが、機会があればまた出かける予定です。

山崎倫子賞

ハイスループットスクリーニングを用いた新規老化制御化合物の同定と社会実装への探索

慶應義塾大学医学部 眼科学教室 研究員

稲垣絵海



このたびは日本女医会におきまして第7回山崎倫子賞を受賞させていただき、貴重な機会をいただきましたこと大変光栄に存じます。日本女医会会長前田佳子先生、理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆様のご支援に厚く御礼申し上げます。

由緒ある日本女医会に参加させていただき、当日は様々な諸先輩方の熱気や気脈を感じ、女医としての使命と責任を改めて実感いたしました。私は三人の子供の出産と育児でキャリアの複数の中断を経て復帰いたしました。育児と仕事とジャグリングのような生活で常にワークエンゲージメントの問題に悩みながら研究生活を行っております。活動をお伺いし、私たち一人一人が、女性のエンパワメントを得るために継続的な貢献をすることの重要性を認識いたしました。

研究の背景として今や人生100年時代といわれる超高齢化社会を目前としていることがございます。本邦では国策として健康寿命の延伸のため、加齢性疾患の病態解明を行うことが急務と考えられております。そこで加齢性疾患に共通するメカニズムを解明するべく、私の所属研究室ではin vitroで生理的な老化を模倣した老化研究基盤を用い、ハイスループットスクリーニングを活用した創薬をめざしております。ご支援のお陰で一部のリード化合物の候補を得つつございます。研究課題をさらに発展させるべく解析を進め、本研究を社会実装できるように日々研究活動に精進してまいります。

最後に研究の機会を与えてくださり、ライフイベントを乗り越えるために多大なるご支援をいただきました慶應義塾大学医学部生理学教室岡野栄之教授、眼科学教室坪田一男名誉教授、根岸一乃教授、藤田医科大学臨床再生医学棟村重人教授および共同研究者の皆様、教室・研究室の皆様・毎日を支えてくださる家族・友人にも感謝申し上げます。微力ではございますが、今後も研鑽し医療にそして女性のエンパワメントに貢献してまいりたい所存でございます。

学術研究助成

胚盤胞補完法を応用したマウス下垂体遺伝子改変技術の確立

聖マリアンナ医科大学 助教

加納麻弓子



この度は日本女医会第68回学術研究助成を賜り、大変光栄に存じます。日本女医会会長をはじめ、理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は愛知県の市中病院にて初期研修および専攻医研修を行い、2016年より名古屋大学須賀英隆先生の研究室で視床下部や下垂体の再生医療研究を開始しました。人生で初めて経験する本格的な基礎実験でしたが、その面白さや達成感にすっかり魅了されました。そして、大学院修了後は東京大学医科学研究所の中内啓光先生の研究室の門戸を叩き、再生医療分野の基礎研究を継続してまいりました。

今回学術研究助成を賜りました研究課題は胚盤胞補完法という臓器再生技術を用いています。胚盤胞補完法とは遺伝子ノックアウトにより特定の臓器を欠損させた動物の胚に同種あるいは異種の多能性幹細胞を注入し、キメラを成立させ、目的臓器を完全に多能性幹細胞由来の細胞に置き換えるという方法です。つい最近、私たちはこの方法を応用し、副甲状腺欠損マウスの体内でマウス多能性幹細胞由来の副甲状腺を作出することに成功しました。マウス多能性幹細胞由来の副甲状腺は周囲のカルシウム濃度に応じて副甲状腺ホルモンを分泌する成熟した内分泌器官でした。さらに異所移植によって、副甲状腺機能低下症モデルマウスの病態を研究し、再生医療および移植医療への可能性を示しました。この胚盤胞補完法の技術は臓器再生以外にも拡張することが可能です。私たちは次のテーマとして胚盤胞補完法を応用し、疾患モデル動物作製の新たな技術基盤を構築することを目指しています。

基礎研究と臨床業務との両立や研究費獲得に悩んでいたところに、日本女医会からの助成金給付の連絡をいただき大変嬉しかったです。今回の受賞を誇りに思い、日々の研究活動に励みたいと思います。

学術研究助成

腸管上皮細胞の防御機構の解明と炎症性腸疾患への治療応用

名古屋大学医学部附属病院 消化器内科

前田啓子



この度は第43回学術研究助成を賜り大変光栄に存じます。日本女医会会長をはじめ、理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は名古屋大学消化器内科学教室に入局し、関連病院で研修を行ったのち、2012年に大学院に入學しました。現在は腸管上皮細胞がどのように腸内細菌や病原体を認識し、感染を防御するかという機構について研究を行っております。

腸管粘膜は、細菌やウイルスなどの病原体に接しており、その最前線に位置する腸管上皮細胞は、病原体に対して独自の防御機構を持っています。これらの機構は、組織を感染から守り、腸管の恒常性を保つために必須の機構であり、その破綻は、腸管感染症、炎症性腸疾患の進展に深く関与します。しかしながら、これまでの研究では、腸管上皮細胞が、どのように病原体を認識して、感染を防御するかは不明な点が多く残されています。私たちは、独自で作製した遺伝子改変マウスや腸管オルガノイドを用いて、機序を解析し、腸管感染症や炎症性腸疾患の病態解明や治療法の開発につなげることを目標として研究を行っています。

最後になりましたが、今回このような研究の機会を与えてくださった名古屋大学消化器内科学教室教授 川嶋啓揮先生をはじめ本研究に関わった方々にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

溝口昌子賞

白内障術後視機能を維持し、アイフレイル予防に貢献する

獨協医科大学眼科

永田万由美



この度は第8回溝口昌子賞を賜り、大変光栄に存じます。日本女医会会長の前田佳子先生、理事および選考委員の先生方、また日本女医会会員の先生方に厚く御礼申し上げます。

私は1999年に獨協医科大学眼科入局後、当時主任教授であった故小原喜隆先生にご指導いただき、白内障術後合併症についての研究を進めてまいりました。白内障手術は手術手技や手術機器の発達によって、術後早期から視力が回復するようになったことから「安全で簡単な手術」と認識されています。しかし、術後合併症である前嚢収縮、後発白内障、眼内レンズ混濁は術後視機能を低下させる原因となり、いまだに完全に抑制されていません。超高齢化社会が進行して白内障手術を受ける患者さんが今後も増えることが予想され、厚労省が挙げるフレイルのひとつであるアイフレイル（加齢による目の機能低下）を予防するために、術後合併症を抑制することは非常に重要であると考えています。

私の研究内容はこれらの合併症を臨床的に評価して予防方法を解明することであり、国内および海外学会でも精力的に報告してきました。これまでの研究活動を評価していただいたことは大変ありがたく、これからも研究を続ける励みになります。

引き続き患者さんの視機能維持のために診療、研究に邁進してまいります。今後ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

山本纈子賞

三刀流外科医として臨床と研究の両面から大腸癌の予後改善を目指す

国際医療福祉大学三田病院 講師

向山順子



この度は第5回山本纈子賞を賜り、大変光栄に存じます。日本女医会会長をはじめ、理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。貴会から賞を頂戴するのは第4回山崎倫子賞（令和1年度）に続き2回目であり、研究成果、国際活動の両面でご評価をいただき心より感謝申し上げます。

私は、学位取得後の2017年から2020年度までの期間、米国Columbia大学に博士研究員として留学し、2021年3月より現職についております。米国滞在中の結婚、出産により、帰国後は医局を異動し、生活の拠点を東京に移しました。医局の異動は非常に大変で、外科医人生の危機でしたが、Physician scientistとしてキャリアを続けることができて幸運でした。

現在は、幼児2人の育児をしながら、消化器外科医としてフルタイムで勤務し、予後が不良で転移再発の多い右側

大腸癌の基礎研究を進めています。育児・臨床・研究の三刀流生活は目が回る忙しさですが、幸いなことに帰国後の約2年間で、8回の国内学会、3回の国際学会で演者として発表し、今回頂戴した第4回山本纈子賞を含めて学会賞を4回受賞しました。また、アメリカやインドの研究機関と国際共同研究を推進しています。

三刀流の困難を数えればきりがありませんが、臨床での課

題を迫及する基礎研究は、Physician scientistの醍醐味であり、どれだけ苦勞をしても生涯続けていきたいという思いを強く持っています。女性医師の海外におけるグローバルな活躍を目的として創設されました山本纈子賞を励みとして、消化器外科診療と大腸癌の基礎研究を推進し、臨床と研究の両面から大腸癌の予後改善を目指していく所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

支部本部連絡会

会長 前田佳子



定時総会に先立って支部本部連絡会を開催いたしました。総会同様4年ぶりの対面開催で、直接支部の活動や本部への率直なご意見をうかがい、有意義な交流を行うことができました。本部役員を除く参加者は対面25名、オンライン6名でした。

初めに本部から総会審議事項のひとつである2024年度以降の会費値上げに関する説明と、本年2月にトランスジェンダー女性医師が入会したことの報告をいたしました。以下、参加していただいた先生の報告・意見をまとめさせていただきました。



浅見豊子先生（佐賀支部長）：会費の値上げは致し方ないものの、若手医師への負担が懸念される。

黒崎伸子先生（長崎支部長）：久しぶりに対面で支部総会を開催した。長崎女性医師の会では長崎大学の女性教授に話を聞く会を予定している。

高野幹子先生（山梨支部）：6月11日に対面の支部総会を予定している。女医会の会費は卒後一定期間無料にしてはどうか。

渡邊弘美先生（東京都支部連合会長）：コロナ禍でも2ヵ月に1回はオンラインで例会を開催し、本年の新年会は久しぶりに対面開催した。東京都支部では入会者はあるものの、退会もあるので実質的には会員が減少しているため、会費の値上げで会員が減ることを危惧する。

高橋英子先生（青森支部長）：ハイブリッドで2022年6月に総会、10月にセミナーを開催した。

竹並麗先生（埼玉支部長）：埼玉は会員が70人以上で、活発に活動をしているが、製薬会社などからの補助がなくなり、会費だけで会の開催を行うのが大変になってきている。最近は先輩の先生に声をかけてご寄付をいただくこともある。

小関温子先生（神奈川支部長）：支部で活発に活動されていた先生方の多くが亡くなり、自身もコロナワクチンの副作用で活動が思うようにできなかった。今回支部の報告を聞いて刺激になったので、再度頑張りたいと思いました。

山下由紀子先生（群馬支部長）：4年前に支部長になり、若い世代にアピールするためにHPを開設した。群馬県女医会賞の創設を決め、資金を集めるために支部の会費を上げることにした。

杉本睦子先生（大阪支部長）：コロナ禍で4年間活動ができていなかったが、今年は総会と講演会を対面開催した。

馬場安紀子先生（栃木支部長）：支部会員は50人台で、総会開催を行うことができうれしく思っている。国際女医会100周年でNYに行くといったイベントがあると、入会してくれるいい機会になる。トランスジェンダー医師の入会も世界で初めての女医会として素晴らしい活動だと思う。

堀口文先生（栃木支部）：気がついたら入会して50年（永年会員）で表彰されました。慶應に勤務していたときに吉岡彌生賞をいただき（1973年）、副賞で電動タイプライターを購入し国際学会で発表することができました。

第68回定時総会 栃木支部主催エクスカーション・懇親会

～大谷石採掘場跡「大谷資料館」と「若竹の杜」竹林散策～

栃木支部 塚田篤子

4年ぶりに対面での総会開催が叶えられ、栃木支部では、皆様に宇都宮市の魅力を知っていただきたく、多くの映画・ドラマ・PV撮影に活用されている人気のロケ地でもある「大谷資料館」と「若竹の杜」へのバスツアーを企画しました。

参加者は25名で、まずは、バスの車窓から大谷石造りのカトリック・松が峰教会を眺め、石の里・大谷エリアへ。シンボルの高さ27mの平和観音で記念撮影後、大谷寺の本尊・大谷観音（日本最古の石仏）を参拝しました。

次の「大谷資料館」は、地下30mに野球場が1つすっぽり入ってしまう程の広大な地下空間で、大谷石の岩肌が露出した構内の気温は7～8度で肌寒く、ここではコンサートや結婚式などが行われることもあり、幻想的・神秘

的で趣のある空間を身近に感じる事ができました。

最後に訪れた「若竹の杜・若山農場」は、東京ドーム5個分の広大な土地に、百年以上にわたって自然循環型農法を用いて竹林を守り続けた農場です。真竹・孟宗竹・金明孟宗竹・亀甲竹などの説明を受けながら散策しました。映画「るろうに剣心」のロケ地でもあり、上映後は多くのファンが聖地巡礼に訪れたそうです。そこは、まるで竹取物語のかぐや姫が浮かんできそうな優しく穏やかな空間で、癒しのひとときでした。旅の終わりに、野掛茶屋で栗菓子と抹茶をいただき一休み、帰路につきました。

「もう一度、ゆっくり、宇都宮に来てみたい」というお声をいただき、やったかいたったと、支部会員一同ほっ



とした次第です。ご参加下さった先生方、本当にありがとうございました。

開催のご報告と御礼

栃木支部長 馬場安紀子

この度は、4年ぶりに定時総会が対面にて無事開催され、多大の喜びと共に深く安堵しております。まだ一抹の不安の残る状況の中、ご参加くださいました皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

栃木支部主催エクスカーションと懇親会は、定時総会前日の5月20日（土）に開催されました。エクスカーションの「大谷」の地下空間と「若竹の杜」の爽やかな竹林とは対照的な趣の場所ですが、参加者の皆様には、餃子ではない宇都宮市の多様な魅力の一端を味わっていただけたのではと思います。

懇親会は、定時総会会場・ライトキューブ宇都宮に隣接するウツノミヤテラス内のアンジェロコート東京宇都宮で開催いたしました。参加者は非会員6名を含む48名でした。来賓として栃木県医師会副会長の浅井秀実先生、同医師会女性医師部会長の福田晴美先生、宇都宮市医師会副会長の増山哲茂

先生にご出席いただきました。お食事は栃木県産の野菜や豚肉などを食材としたシチリア料理、足利市産のワインもご賞味いただきました。そして各テーブルに配置した栃木支部会員により、出席者全員の「他己紹介」をいたしました。アトラクションは、とちぎ未来大使でもあるピアニストの大野紘平さん（23歳）の力強くも繊細な演奏を楽しんでいただきました。曲目は多ジャンルにわたり、アンコールでは「オー・シャンゼリゼ」を歌唱と共に演奏され、会場中が日本女医会では前代未聞の（？）タオル振り振り大合唱で盛り上がりお開きとなりました。

栃木での定時総会は25年ぶり2回目ですが、本来ならば2年前の第66回を担当の予定でした。実行委員会は2020年に活動を開始しましたが、コロナ禍により中止、延期となり、2022年に再開したときには、当初予定の会場のホテルはコロナ廃業し、日本女医会会長、



栃木支部長はともに交代しました。しかしその間にJR宇都宮駅前に県のコンベンション施設が新設され、隣接してホテルや大駐車場を含む複合商業施設もできて利便性は格段に向上し、「災い転じて福」となったのではと思います。唯一残念だったのは、今回の開催を最も切望されていた山崎トヨ前支部長が急きょ欠席を余儀なくされたことでしたが、皆様から多くの温かいメッセージをいただき山崎先生にお届けすることができました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

「皮膚疾患の新しい治療」

自治医科大学皮膚科学講座教授 小宮根真弓



小宮根先生のご講演の一部は
日本女医会 HP にて公開しております。

I. はじめに

皮膚科では、皮膚に変化を表す疾患すべてを診療しており、そのカバー範囲は広範にわたります。アトピー性皮膚炎や乾癬、水疱症、膠原病などの炎症性疾患、有極細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫、血管肉腫などの悪性腫瘍、毛包や汗腺に関連した良性腫瘍、蜂窩織炎や丹毒、足白癬、皮膚カンジダ症、深在性真菌症や非結核性抗酸菌症などの感染性疾患、熱傷・化学熱傷・外傷など外的刺激による疾患、さらに遺伝子異常で発症しますが成人期まで診断されていない遺伝性疾患も診療しています。

II. 乾癬

乾癬は、関節炎やぶどう膜炎、高血圧・糖尿病・動脈硬化・肥満などのメタボリック症候群を合併しやすいことが明らかになっており、乾癬を皮膚のみの炎症疾患ではなく、全身の炎症性疾患として、合併症も含めて Psoriatic disease と捉えるようになってきました。2010年以降、生物学的製剤が次々と開発され、現在、TNF、IL-17、IL-23などのサイトカインをターゲットとして、約11種類の生物学的製剤が使用できるようになっています。さらに、Phosphodiesterase4 (PDE4) 阻害剤や Janus kinase (JAK) 阻害剤の内服薬が使用できるようになり、中等症から重症の乾癬に対する治療薬は選択肢が拡大し、患者さんの状況に合わせてより適切な治療薬を選択できるようになりました。

III. アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎は、寛解と増悪を繰り返す、湿疹を主病変とする疾患で、多くの患者はアトピー素因を持つ、と定義されています。アトピー素因とは、アレルギー性鼻炎やアレルギー性結膜炎、気管支喘息など IgE を産生しやすい背景です。

皮膚のバリア機能、かゆみ、免疫異常の3者が重要視され、アトピー性皮膚炎の三位一体説が提唱されています。

幼少期に皮膚のバリアが悪いことで、環境中の様々なアレルゲンに感作されて食物アレルギーが発症すること、幼少期に適切な皮膚バリア保護を行うことで、その後の食物アレルギー発症が抑制されることもわかっています。

最近ではタイプ2サイトカインに対する生物学的製剤(注射薬)やJAK阻害剤などの内服薬が使用できるよう

になり、皮疹のコントロールが以前に比べると格段に容易になり、また患者さんが外用治療で大きなストレスを感じることも少なくなっています。

IV. ざ瘡

ざ瘡治療においてもさまざまな治療薬が開発されています。過酸化ベンゾイルやレチノイド、抗菌薬外用剤が角質除去、アクネ桿菌の増殖を抑制、炎症抑制の作用を発揮して効果があります。

V. 単純疱疹

単純疱疹は、単純ヘルペスウイルスによる感染症で、初回感染時には発熱を伴い比較的重症な皮疹・粘膜疹を生じます。いったん感染すると、ウイルスは生涯神経節等に潜伏感染し、宿主の体力・免疫力が弱ったとき等に繰り返し症状を呈するようになります。

再発時には、ピリピリ感など前駆症状を感じる患者さんも多く、このような時期に早めに抗ウイルス剤内服を開始することで重症化を予防できます。通常の治療では、皮疹・粘膜疹が発症した際に5日間ほど内服しますが、性器ヘルペスで年6回以上再発する場合には、1年間内服を継続する再発抑制療法を行うことができます。

VI. 多汗症

発汗は自律神経によって制御されています。交感神経末端からアセチルコリンが放出され、ムスカリン受容体サブタイプ3 (M3) に結合することで発汗が誘発されます。最近では、アセチルコリンの働きを抑制する抗コリン薬が外用治療薬として開発されています。腋窩多汗症についてはボツリヌス毒素の局所注射も保険適用となっています。

VII. 病診連携

自治医科大学では、病診連携を積極的に推進しています。積極的に紹介元のクリニックに患者さんを逆紹介し、大学病院とダブルで診療を継続し、紹介元の開業医の先生とともに診療のレベルアップを図ることで、最終的に地域全体の診療がレベルアップすることを目指しています。

支部・本部連絡会、第68回定時総会 ハイブリッドテスト報告

IT部 磯貝晶子

新型コロナウイルス感染症が5類に変更になったことにより、3年ぶりに支部・本部連絡会、定時総会が現地開催されることになりました。現地開催は直接お会いしてお話しできるのがとてもうれしいことなのですが、残念ながら、さまざまな事情で現地に来られない会員が多数いらっしゃるのが現状です。できるだけ多くの方に参加していただき、意見交換ができることを目標に（プラス最低限のコストと手間）、今回はハイブリッド開催のテストをさせていただきました。

開催方式は会員限定で双方向のやり取りをするため、Zoomで行いました。ノートPCでZoomホストとして会議を管理、スクリーンにZoom参加者を映しました。一方、iPadで会場の様子を撮影し、Wi-Fi経由でZoomに映像を流しました。画質はクリアでしたが、カメラが1台では発言者を追うのが精一杯だったため、固定カメラと移動カメラの2台用

意できれば良いなと思いました。

会場マイクは最小限の2本としました。iPadに集音マイクを装着していましたが、リハーサル中は問題なく使用できていたにもかかわらず、総会を開始したら会場マイクとハウリングを起こしてしまいました。音声調整のため、総会冒頭15分ぐらい遅れが出てしまい、大変反省しています。Zoom会議では映像よりも音声を優先しなければならないため、オーディオミキサーなどの機材の使用を今後検討すべきと考えております。



第7回

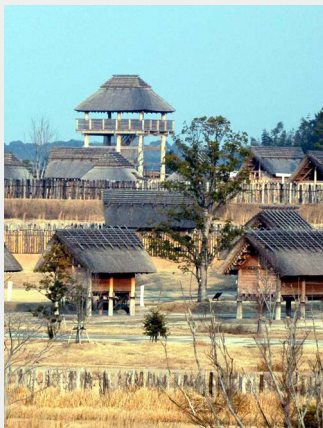
北から
南から

古代医の徐福と吉野ヶ里

佐賀県女医会
太田 記代子

歳を重ねるにつれ、佐賀から全国や世界に発信すべきことが数多くあると思うようになりました。

2200年ほど昔、中国を統一した戦争巧者の秦始皇帝は、東海の島、つまり日本に住むと信じられていた仙人の持つ「不老不死の仙薬を持ち帰れ」と徐福に命じました。徐福は大船と若い優秀な部下を要求した由、始皇帝は大船を作り与え、3000人の童男と童



写真提供：佐賀県立佐賀城本丸歴史館長 七田忠昭氏

女と百工を伴い渡海した等と、史記の5ヶ所に記載されていますので、徐福渡来は史実と信じられます。全国に20ヶ所以上、徐福伝説が残っていますが、佐賀の場合、上陸地点も特定され、恋物語も残っております。

日本の縄文時代は1万3000年程続き、縄文人は丸顔で小柄、毛深く温和だったとか。徐福の集

団は有明海に礼を尽くして入港してきたと語り継がれています。温和な縄文人は、それで安心して受け入れたのでしょうか。

昭和28年の大水害時、吉野ヶ里一体に甕棺が表出し、恩師・七田忠志先生はその中の人骨を九州大学医学部金関丈夫教授に分析を依頼。教授はそれまでの人骨より長身である故「渡来系弥生人説」を発表。知の巨人と称された金関教授に頭が下がります。

最近DNA分析ができるようになり、医学的に徐福出航地の中国古代人骨との比較研究が進み、縄文人が徐福集団を温かく受け入れたことが証明されつつあり、歴史のロマンを感じますし、日中友好にも貢献する吉野ヶ里と感じております。

人類の歴史は病との戦いの歴史であり、武器の強大化の歴史でもありました。石や槍持て戦いし時代と異なり、核兵器の現代!! もう戦は止めて仲良くと教示しているがごとき吉野ヶ里です。

古代ローマと同じ頃のシルクロードの東の終点の吉野ヶ里!!

世界平和を訴える遺跡として世界遺産にと運動をしております。どうぞお力を添えてくださいませ。

公益社団法人日本女医会 第68回定時総会議事録

2023年5月21日(日)午前11時00分より、ライトキューブ宇都宮(栃木県宇都宮市宮みらい1-20 201大会議室)に於いて、4年ぶりに対面にて第68回定時総会が開催された。予め希望登録していた会員は、インターネット回線、及びWeb会議用アプリ、ZOOMを用いて視聴参加した。

開会の辞

青木正美副会長より、開会の辞が述べられた。

司会の芳川た江子理事より2023年3月31日現在の会員総数905名に対し、出席者数56名、記名委任者数465名、合計521名であり、公益社団法人日本女医会定款第18条、第19条の規定により、出席が会員総数の2分の1以上に達しており、本総会が成立する旨の報告があり、開会を宣した。

黙祷

2022年度3月31日まで、及びその後5月2日までに物故された会員20名の方々の冥福を祈り、黙祷を捧げた。

会長挨拶

議案の審議に先立ち、前田佳子会長より挨拶があり、総会の対面開催を再開させた栃木支部会員に対し、また120周年を迎え、これまで支えてきた諸先輩や会員への感謝の言葉が述べられた。また、昨年12月の120周年式典・祝賀会出席者へのお礼とリニューアルしたHPの新機能の説明が行われた。最後に新型コロナウイルスに対するさらなる注意を喚起し、平和を求める発信を続けていく日本女医会の決意を訴えた。

報告

- 1) 青木正美副会長より、「第68回定時総会資料」に基づき会員動向、第67回定時総会での審議の結果、会費納入状況、理事会役員、理事会開催日、部会開催日、各賞の選考委員会開催日、支部代表・副代表の訂正等に関する報告が行なわれた。
- 2) ナショナルコーディネータの前田佳子会長より、2022年6月24日から26日に台北において開催された第32回国際女医会議の参加報告と、2023年3月にニューヨークにおいて開催された国連女性の地位委員会CSW第67回の参加報告があった。

引き続き議長団、及び議事録署名人の選出に移った。

議長団選出

司会より参加者に対して議長団、並びに議事録署名人の推薦について会長一任と諮ったところ、異議がなかったため、議長団として杉本睦子会員、竹並麗会員、議事録署名人に高橋英子会員、馬場安紀子会員が指名され、拍手多数で異議なく選出された。議長団は議長席についた。

議事

【承認第1号】

2022年度事業報告承認の件

青木正美副会長より、「2022年度事業報告」に基づき説明が行われた。

【承認第2号】

2022年度決算報告書承認の件

藤谷宏子副会長より「2022年度収支計算書」に基づき説明が行われた。

【会計監査報告】

村上京子監事より、2023年4月15日に慎重かつ厳正な会計監査を実施し、その結果、適法かつ正確であることを確認した旨が報告された。

以上の承認事項と報告につき、議長が質問を求めたところ、以下の質疑応答があった。

質 問：事務所の家賃が事業費と管理費の両方に計上されているのはなぜか？

回 答：公益社団法人法に基づき、費用は事業費と管理費に按分しているためである。

以上の質疑応答の後、議長は承認第1号、及び第2号について賛成者の挙手を求めたところ、挙手多数(2分の1以上)と認められたため、承認第1号、及び第2号は原案の通り承認された旨を述べた。

【承認第3号】

2024年度以降の会費値上げの件

前田佳子会長より、会費値上げ提案についての説明が行われ、審議が求められた。

議長は承認第3号について、挙手による質問、意見を求めたが、挙手がみとめられなかった。引き続き賛成者の挙手を求めたところ、挙手多数(2分の1以上)と認められたため、承認第3号は賛成多数として承認された。

その後、竹並議長より以下の報告第1号「2023年度事業計画」、及び報告第2号「収支予算報告」については、すでに理事会の承認を経て、内閣府への報告が完了しており、承認決議を行わない旨が述べられた。

【報告第1号】

2023年度事業計画の件

青木正美副会長より、日本女医会HPリニューアルの紹介や、定時総会資料「2023年度事業計画」に基づく説明が行われ、2022年度末に内閣府に提出したことが報告された。

議長は報告第1号について挙手による質問、意見を諮ったところ、挙手がみとめられなかったため報告第2号に移った。

【報告第2号】

2023年度予算の件

藤谷宏子副会長より「2023年度収支予算書」に基づき説明が行われ、2022年度末に内閣府に提出した旨の報告があった。

また、最後に公益事業推進のために引き続きの寄附・協賛の呼びかけや会員数の増強・保持の重要性が述べられた。

議長は報告第2号について挙手による質問、意見を諮ったところ、挙手がみとめられなかったため報告第3号に移った。

【報告第3号】

次期及び次々期総会開催地に関する件

前田佳子会長より、次回の第69回定時総会は2024年5月19日に東京において開催される予定である旨が述べられた。

また次々期の候補地は未定であり、募集中である旨が述べられた。

議長は報告第3号について挙手による質問、意見を諮ったところ、挙手がみとめられなかったためすべての報告に賛同が得られたとし、すべての審議、及び報告が終了した旨を述べ降壇した。

表彰

1) 日本女医会吉岡彌生賞

<医学に貢献した女性医師部門>

武曾恵理(京都華頂大学現代家政学部・食物栄養学科教授・大阪支部)

2) 荻野吟子賞

角田由美子(練馬支部)

3) 学術研究助成授賞者

加納麻弓子(聖マリアンナ医科大学 助教・神奈川支部)

前田啓子(名古屋大学医学部附属病院 助教)

<第7回 山崎倫子賞>

稲垣絵海(慶應義塾大学医学部 眼科学教室・新宿支部)

<第8回 公益社団法人日本女医会 溝口昌子賞>

永田万由美(獨協医科大学眼科 学内准教授・栃木支部)

<第5回 公益社団法人日本女医会 山本纈子賞>

向山順子(国際医療福祉大学三田病院 講師)

4) 功労会員

諏訪美智子(渋谷支部)

閉会の辞

藤谷宏子副会長が、弊会の言葉を述べ閉会を宣した。

午後12時49分閉会

議事録が正確であることを証するため議長及び議事録署名人の捺印

2023年5月21日

| | |
|--------|--------------------|
| 議 長 | 杉本睦子 [㊞] |
| 議 長 | 竹並麗 [㊞] |
| 議事録署名人 | 高橋英子 [㊞] |
| 議事録署名人 | 馬場安紀子 [㊞] |

国際女医会通信

The Letter from Medical Women's International Association (MWIA)



30

日中笹川医学奨学金制度 35 周年記念式典に 参列いたしました

National coordinator (NC) 前田佳子

2014年10月発行の日本女医会誌復刊第220号から掲載を始めた国際女医会通信も今回でNo.30となりました。国際女医会のニューズレターの紹介から始まりましたが、途中からはその時々国際的な活動も紹介させていただいています。今回は西太平洋地域の役員会からの報告に加え、日本女医会会長として顧問を務めている日中医学協会に関する活動も報告させていただきます。

1) 国際女医会西太平洋地域役員会議

コロナ禍には2ヵ月毎にオンライン開催してきた会議でしたが、今回は1年ぶりの2023年6月21日にオンラインで開催されました。現在西太平洋地域の加盟しているのはオーストラリア、中国、香港、日本、韓国、フィリピン、台湾、ベトナムの8カ国と個人会員です。西太平洋地域会議は2021年に韓国が主催でバーチャル開催されましたが、今後の開催予定が確認されました。2024年7月18～20日にフィリピンのセブ島で開催することが決まり、2027年には創立100周年を迎えるオーストラリア女医会が主催で開催が予定されています。

2) 日中笹川医学奨学金制度 35 周年記念式典

2023年7月28日に中国の北京人民大会堂で開催されました。人民大会堂は全国人民代表大会などの議場や外国使節・賓客の接待の場所として使われており、ニュースで見たとあると思います。入館にあたっては鞆の持ち込みも禁止され、入り口では金属探知機で厳しいセキュリティチェックを



受けました。

この制度は1986年8月14日に日中医学協会の石館理事長、中国衛生部（日本の厚生労働省）の陳副部長、笹川記念保健協力財団の笹川会長が協定書に調印してスタートしました。翌1987年に第一期生100人を迎えてから、現在までに約2400人がこの制度によって日本国内で研修を受け、現在中国国内で活躍されています。

今回この制度の35周年を祝って、日本からは140人、中国全土から700人以上が参加して式典が行われました。式典には森喜朗元総理も参列し、祝辞を述べられました。2024年から始まるプロジェクト第六次協定調印式も行われました。式典の後には、天井の高い宴会場で祝賀会が開催され、楽しい時間を過ごしました。



第25回ブロック懇談会～佐賀

庶務部長 芳川た江子

2023年6月25日(日) ホテルニューオータニ佐賀にて第25回ブロック懇談会を開催いたしました。久しぶりの対面で、日本女医会の本部理事は8名(前田・磯貝・牛山・木村・塚田・樋渡・宮坂・芳川) 参加しました。各々飛行機や列車で佐賀に入りました。佐賀が初めてという理事が何人もいました。佐賀の先生は17名参加で合計25名で、盛大で和気あいあいとした会でした。

6月25日(日)は、12:30～14:30までランチオンミーティングの形式で、食事をしながら会を進行しました。最初に全員の記念集合写真を撮影して、開会の挨拶を日本女医会会長の前田佳子先生と佐賀支部長の浅見豊子先生がなされ、日本女医会の紹介で、1) 日本女医会の歴史と活動を日本女医会会長の前田佳子先生が、2) 日本女医会の事業報告を牛山元美理事が報告されました。3) ナショナルコーディネーター報告は、ナショナルコーディネーターの前田佳子先生がされました。

次に、佐賀県における女性医師支援活動の取り組みで、1) 佐賀県医師会の女性医師支援への取り組みを佐賀県医師会常任理事の美川優子先生が発表されました。佐賀県の課題としては、県内医師の偏在(医師の高齢化・過疎地の医師不足)、個人診療所への支援(常勤・非常勤医師の確保)、若手医師の定着・子育て世代への支援などがあるようです。佐賀県としての今後の目標としては、中長期目標として、「県内の医療需要のピーク

時(2035～2040)までに、佐賀をベースに働く医師(若手医師・女性医師)を増やしつつ診療科ごとの必要医師数を確保する」、短期目標としては、「県内の臨床研修医を増やす」「県内の専攻医を増やす」「女性医師の流出を抑制する」などがあるようです。

次に、2) 佐賀県女医会の活動を、佐賀県女医会事務局長の福岡麻美先生が発表されました。佐賀県女医会は、1950年(昭和25年)7月1日に発足し、当時の会員数は38名だったそうです。現在の会員数は52名で、活動の目的としては、「会員各自の知識の向上」「会員相互の親睦」「会員の権利の擁護」「社会貢献・人類の福祉増進」「日本女医会との連携」などがあるようです。

次に、懇談会を前田会長と浅見支部長のお二人の司会のもと、活発な意見交換ができました。男女を問わず、若い先生方の県外流出をいかに防ぐかということが話題の中心でした。

最後に、日本女医会理事の宮坂晴子先生に閉会のことばをいただき、締めくくっていただきました。

このたびは、浅見豊子先生をはじめ佐賀の先生方に大変お世話になりありがとうございました。おかげで、心に残るブロック懇談会を開催することができました。また、何かの折には有名な吉野ヶ里遺跡群があるので佐賀の方へ足を延ばしたいと思います。



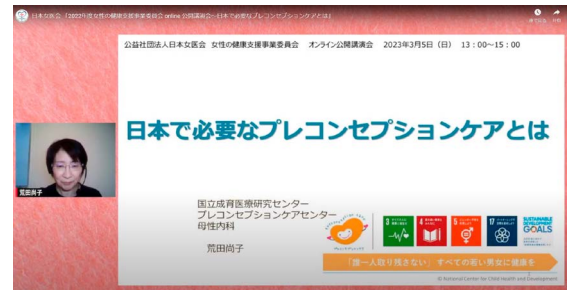
日本女医会主催・女性の健康支援事業委員会 online 公開講演会報告

「日本で必要なプレコンセプションケアとは？」

2023年3月5日(日) 13～15時 YouTube ライブによるオンライン開催

女性の健康支援事業委員長 樋渡奈奈子

『女性の健康週間』中の日曜日、国立研究開発法人国立生育医療センター 周産期・母性医療センター母性内科医長の荒田尚子先生に『日本で必要なプレコンセプションケアとは』の演題でご講演を頂きました。私たちに馴染みの薄い『プレコンセプションケア』について、日本における課題を含めて詳しくお話し頂きました。特に働く女性におけるキャリア形成・生殖医療等への支援や経済・教育・地域・ジェンダーにおける社会格差、少子高齢化の根源にある問題の解消等が喫緊の問題であると話され、私たちがその一助となる活動を継続していきたいと考えています。



荒田尚子先生のお話

プレコンセプションケアは「受胎前からの健康管理」が直訳であり、海外では母子の周産期転帰改善のための保健政策としてプレコンセプションケアが実施されてきている。

日本は諸外国と比較し、妊産婦死亡率や周産期死亡率は世界でもトップレベルで低値を示す一方、日本特有の多くの問題を抱えている。まず、若い女性の低栄養やボディイメージの歪みからくるやせの増加と低出生体重児割合の増加、それに伴う子どもたちの長期的な健康問題への懸念がある。次に、ヘルスリテラシーが低いための多くの問題も知られている。例えば、HPV ワクチン接種の事実上8年半の停止、その他のワクチン接種率、子宮頸がん・乳がん検診率、葉酸含有サプリメント摂取率、低用量ピル内服率が先進諸国と比較して低値であること、女性の月経にまつわる諸健康問題に伴うQOLの低下、避妊や性感染症対策のパートナーへの依存性などである。若い世代の望まぬ妊娠に

よる人工中絶、DV、児童虐待などの増加、結婚や妊娠を望まない若者の増加による少子化問題の一方で、妊娠年齢の高齢化に伴う生殖補助医療実施数の増加、是正されないジェンダー格差も問題である。さらに、出産年齢の高齢化により生活習慣病や慢性疾患をもった女性が増加し、小児期・AYA世代までに病気になった女性や未熟児で生まれた女性が元気に成長し生殖年齢を迎え、ハイリスク妊娠と想定される女性の妊娠が増加してきている。

これらの日本での問題を解決していくためには、我が国で不足している「前思春期から若い世代に対する国際標準の性と生殖に関する教育」を早急に補填しながらプレコンセプションケアを進めていく必要がある。日本でのプレコンセプションケアは、周産期転帰改善のみを目的とするのではなく、「前思春期から生殖可能年齢にあるすべての人々の身体的、心理的および社会的な健康の保持および増進」と定義し、現在から将来にわたる自らの健康のみならず次世代の健康の保

持及び増進を図り、社会全体の健康を向上することを目的とすることが必要ではないだろうか。

2018年に「成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律」、いわゆる成育基本法が制定され、その基本指針が2021年に出された。その中でプレコンセプションケアとは、女性やカップルを対象として将来の妊娠のための健康管理を促す取り組みと記され、安心・安全で健やかな妊娠・出産、産後の健康管理を支援するため、成育過程にある者等に対して需要に適確に対応した切れ目のない支援体制を構築することが指針の中で述べられた。また、日本医学会が2022年にまとめた「未来の提言」の中で、子どもの身体的・精神的健康維持・増進のためのケアの拡充が示され、その対策の一つとしてプレコンセプションケアが挙げられている。現在、日本独自のプレコンセプションケアが始動しつつあるといえよう。

荒田先生のご講演は日本女医会 HP にて公開しております。当日ご視聴できなかった方、もう一度聞きたい方など、是非ご利用ください。

公益社団法人日本女医会
(((理事会議事録)))

2022年度第7回理事会議事録

1. 日時・場所

1. 日時 2023年3月18日(土)
午後3時30分～午後5時30分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出欠席者

1) 出席者

| | | |
|----|-------|-------|
| 理事 | 前田佳子 | 藤谷宏子 |
| | 青木正美 | 磯貝晶子 |
| | 牛山元美 | 木村友美 |
| | 塚田篤子 | 野村明子 |
| | 樋渡奈奈子 | 宮坂晴子 |
| | 望月善子 | 芳川た江子 |

監事 大関ひろ美

2) 欠席者

理事 大谷智子
監事 村上京子

2. 継続審議事項

1. 第68回定時総会について (継続)
 - ・芳川理事より、庶務部担当事項である、タイムテーブル案、案内状案、出欠はがき案、対面申込書案、2022年度功労会員・永年会員についての確認が行われた。今回は対面のみで行い、オンライン視聴者には議決権が無い旨が報告された。
 - ・前田会長から支部・本部連絡会について報告事項案が出され、支部の発言時間も確保したいとの意向から、開始時間を早め、部屋は総会と同室にすることになった。また、役員に対して、担当支部長に出席の声掛けをするよう要請があった。
 - ・塚田理事から、エクスカッションの人数制限を上回る参加希望がある場合は、栃木会員が譲る旨の提案があった。
 - ・受付の体制については、新しい事務員が決まってから検討することになった。
 - ・201大会議室と202大会議室の時間延長とスクリーンのレンタルが承認された。
 - ・磯貝理事より、支部・本部連絡会と総会のオンライン視聴についての説明があった。
 - ・対面申込書の参加費について確認・承認された。
2. 創立120周年記念事業について (継続)

藤谷副会長より、収支について説明があり、使途について会計士と相談する旨の報告があった。
3. 2023年度ブロック懇談会(6/25ホテルニューオータニ佐賀)について(継続)
 - ・芳川理事より、ブロック懇談会開催の説明があり、オンライン開催予定から対面

開催予定に変更になったこと、出欠確認は総会後に行う予定であることなどが報告された。

・総会に佐賀の会員が参加する場合は、ブロック懇談会の紹介を依頼する提案があった。

4. 創立120周年記念特集号について (継続)

・樋渡理事より、広報部とIT部とでオンラインで2回行われた打ち合わせの報告と、別刷りになる創立120周年記念特集号の内容案についての説明があった。
・藤谷副会長より、前田会長からの提案が紹介され、さらに内容の検討が必要であることから発行時期は9月になる旨の報告があった。

3. 審議事項

1. 2023年1月、2月会計報告承認 (承認)

野村理事より説明があり、2023年1月、及び2月の会計報告が承認された。
2. 2022年度第6回理事会議事録承認 (承認)

2022年度第6回理事会議事録が承認された。
3. 2023年2月臨時理事会議事録承認 (承認)

2023年2月臨時理事会議事録が承認された。
4. 2024年度以降の会費値上げについて (承認)

前田会長より、年間の収支赤字を解消するため、会費を15,000円に値上げすることが提案され、承認された。総会の審議事項とする。
5. 慶弔費等内規改訂：会員の死去から一定以上の期間が経過してしまった場合の対処について (継続)

前田会長より、亡くなってから一定以上の期間が経過した後に報告された場合は、弔電または香典ではなく、お花などを送ることが提案され、次回理事会に内規案を提出することになった。

4. 報告事項

1. 各部、NC報告
 - 1) 庶務部報告
 - ・芳川理事より新入会員と会員動静についての報告があった。
 - 2) 広報部報告
 - ・樋渡理事より会誌248号の進行状況について報告があり、執筆者が代わったため「北から南から」掲載が延期になる可能性が示唆された。
 - 3) 学術部報告
 - ・望月理事より第55回吉岡彌生賞、第40

回萩野吟子賞、第7回山崎倫子賞を含む第43回学術研究助成及び第8回溝口昌子賞、第5回山本薫子賞の選考結果についての報告があった。

4) IT部報告

・磯貝理事より、2022年度に2回行われたライブ配信講演会を踏まえて作成された公開講演会YouTube Liveマニュアルと、一般向け講演会の留意点についての説明があった。

5) ナショナルコーディネータ報告

・前田会長より、西太平洋地域会議の状況報告と、3/17まで開催されていたCSW67の平行イベントとして国際女医会が開催したオンラインイベント「分野をこえた最高と最低のテクノロジー」についての報告が行われた。また次回の国際女医会会誌には、長寿社会福祉事業と女性の健康支援事業のオンラインセミナーについて、3月末までに報告する予定であることが述べられた。

2. 各委員会報告

- 1) 男女共同参画事業委員会(4月よりダイバーシティ推進委員会)

木村理事より、次回第16回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウムの講師候補が紹介され、承認されたため、正式依頼することとなった。
- 2) 長寿社会福祉委員会

芳川理事より、1月にYouTube Liveで開催されたオンラインセミナーについての報告があった。視聴者数に比べ、アンケート回答数が少ないことが課題となった。
- 3) 女性の健康支援事業委員会

樋渡理事より、3月にYouTube Liveで開催された公開講演会についての報告があり、今後さらに一般の方やより多くの方々に、視聴していただく工夫が提案された。
- 4) 小児救急事業委員会

藤谷副会長より、HP掲載の予定についての報告があった。
- 5) HP制作委員会
 - ・前田会長より下記の掲載報告があった。
- 世界で起きているあらゆる戦争に反対します。/We oppose all wars going on in the world.
 - ・前田会長より、会員紹介の新コンテンツ「素敵なお先輩」の創設が提案された。
3. 対外的団体活動
 - 1) 国際婦人年連絡会
 - ・前田会長より、2/15と3/15に開催された常任委員会の報告と、2/23に開催された愛知学院大学経済学部の関根佳恵教授によるセミナー「アグロエコロジーと小規模家族農業」の報告があった。

・CSW67で行ったサイドイベントの報告と来年のCSWテーマ及びサイドイベントについての説明があった。

2) 国連 NGO 国内女性委員会

前田会長より3/2に開催された役員会の報告があった。

4. その他

1) W7 報告

前田会長より、G7の公式なエンゲージメントグループであるWomen7 (W7)のアドバイザーに専任され、その活動状況と4/16開催のフォーラムに出席予定であることが報告された。

2) 軽井沢セミナー (10/21 軽井沢プリンスホテル) について

磯貝理事より、4年ぶりに対面で開催される軽井沢セミナーについての説明があり、前田会長が講師を務めることや、参加の呼びかけがあった。

以上

公益社団法人日本女医会

((((理事会議事録))))

2023年度第1回理事会議事録

1. 日時・場所

1. 日時 2023年4月15日(土)
午後3時30分～午後5時30分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出欠席者

1) 出席者

| | | |
|----|-------|-------|
| 理事 | 前田佳子 | 藤谷宏子 |
| | 青木正美 | 磯貝晶子 |
| | 牛山元美 | 大谷智子 |
| | 木村友美 | 塚田篤子 |
| | 野村明子 | 樋渡奈奈子 |
| | 宮坂晴子 | 望月善子 |
| | 芳川た江子 | |

監事 大関ひろ美

2) 欠席者

監事 村上京子

2. 継続審議事項

1. 支部・本部連絡会及び第68回定時総会について (承認)
 - ・芳川理事より、第68回定時総会役員打ち合わせの開始時刻(9:15)と、現在までの委任状数の報告、役員出席の確認などが行われた。また受付業務などで栃木支部の会員に協力していただく、設営は庶務部・IT部が中心となり役員が手伝う、受賞者は全員出席してスピーチを行うなどの報告があった。
 - ・青木副会長より、事務局の体制が変わり、本年度より庶務部が中心になって運営することになったが、対面開催の経験が無

いため、執行部、庶務部、IT部、栃木支部で準備委員会を立ち上げ、早急にzoom会議を行う予定であることが述べられた。

- ・塚田理事より、エクスカッション、懇親会の申込状況も適宜教えてほしいという要望が出された。また、懇親会の開始時刻が15分早まった説明と、役員の宿泊用に予約した部屋数の確認などが行われた。
 - ・前田会長より、4/17(月)までに定時総会資料を確認するよう指示があった。
 - ・事務局より、2022年度功労会員の人数変更が報告された。
2. 2023年度ブロック懇談会(6/25 ホテルニューオータニ佐賀)について(継続)
 - 芳川理事より、4月末までに役員の出欠の確認を行う旨の報告があった。
 3. 創立120周年記念特集号について (継続)
 - 樋渡理事より、総会後にスペースやページ数を再検討し、予算案を出す予定であることが述べられた。
 4. 慶弔費等内規改訂：会員の死去から一定以上の期間が経過してしまった場合の対処について (承認)
 - 前田会長より、葬儀当日の役員の参列は、香典1万円、非参列の場合は、弔電もしくは供花(1基)、死亡後6ヶ月までは、香典1万円。死亡後6ヶ月以降は、生花5千円程度という改正案が出され、承認された。
- #### 3. 審議事項
1. 世界摂食障害アクションディ2023での後援名義使用許可のお願いについて (承認)
 - 前田会長より、名義使用の提案がなされ、承認された。
 2. 愛知県支部について (承認)
 - 前田会長より、「日本女医会愛知県支部」が「愛知女性医師の会」に名称変更したことが報告され、定時総会資料には「愛知県」を「愛知」に改め、代表・副代表が不在という地域として記載する案が出され、承認された。大谷理事より、詳しい経緯の説明要望があり、会長が後日、村上監事に尋ね、報告することになった。
 3. 2022年度第7回理事会議事録承認 (承認)
 - 宮坂理事より説明があり、2022年度第7回理事会議事録が承認された。
 4. 2022年度事業報告および決算諸表の監査について (承認)
 - 大関監事より、監査を行い、問題が無い旨報告があり、承認された。

4. 報告事項

1. 各部、NC 報告

1) 庶務部報告

芳川理事より、新入会員と会員動静についての報告があった。

2) 広報部報告

樋渡理事より、会誌248号が近日発行予定である旨の報告や、2022年度第7回理事会議事録の女性の健康支援事業委員会報告について訂正指摘が行われた。また役員に対して、「北から南から」を執筆していただける地方会員推薦の呼びかけがあった。

3) 学術部報告

大谷理事より、HPの「新しい治療とトピックス」を投稿予定である旨の報告があった。

大谷理事より、リニューアル後のHPのヘッダー項目について分かりにくいとの指摘があり、青木副会長より、IT部で検討する旨が述べられた。

樋渡理事より、会誌248号掲載予定の前田会長巻頭言「日本女医会宣言2022」について理事会承認が必要ではないかという指摘があった。前田会長より、HPに掲載の会長挨拶及び創立百二十周年の会長挨拶と同内容であることが述べられ、青木副会長より、本件もIT部で検討することとなった。

4) IT 部報告

磯貝理事より、定時総会の会場の様子をzoomで配信する担当であること、前回に引き続き、本日の理事会でも実験していることなど、配信専門業者ではない役員自らによる初の試みについて説明が行われた。

5) ナショナルコーディネータ報告

前田会長より、国際女医会ニュースレター原稿を提出した旨と、明日開催のW7フォーラムに出席予定の国際女医会前事務局長のDr. Padminiと本日会う予定であることなどが報告された。

2. 各委員会報告

1) ダイバーシティ推進委員会

木村理事より、キャリア・シンポジウムは10月14日(土)に収録して、10月末から11月初旬に配信予定であることが報告された。

2) 長寿社会福祉委員会

芳川理事より、長寿社会福祉事業オンラインセミナーの講師及び内容案と12月の平日夜に開催予定であることが述べられ、講師を推薦した牛山理事より、さらに詳しい説明が行われ、承認された。

3) 女性の健康支援事業委員会

樋渡理事より、心身症をテーマとした旨が述べられた。

- 4) 小児救急事業委員会
藤谷副会長より、本年度の活動予定として、小児救急冊子の販売継続と、一般の保護者向けに情報発信すべく、HP用原稿が発表され、掲載が承認された。
- 5) HP 製作委員会
前田会長より、HP に告知を掲載した会長出演予定のラジオ番組についての説明が行われた。
- 3. その他
 - 1) 委員会規定改定について
前田会長より、男女共同参画事業推進委員会が4月1日よりダイバーシティ推進委員会に名称変更したことに伴い、規定を変更する旨が述べられた。
 - 2) 軽井沢セミナーについて (10/21 開催)
磯貝理事より、役員に出席予定の確認が行われた。
 - 3) 事務員交代について
前田会長より、経理担当の新事務員についての紹介があった。

以上

(((理事会議事録)))

2022年5月臨時理事会議事録

1. 日時・方法

- 1. 日時 2022年5月10日(水)
午後9時30分～10時31分
- 2. zoom 配信
- 3. 出席者

| | | |
|----|-------|-------|
| 理事 | 前田佳子 | 青木正美 |
| | 藤谷宏子 | 磯貝晶子 |
| | 牛山元美 | 木村友美 |
| | 塚田篤子 | 野村明子 |
| | 樋渡奈奈子 | 宮坂晴子 |
| | 望月善子 | 芳川た江子 |
| 監事 | 大関ひろ美 | |

2. 議題

- 1. 小西事務員の雇用形態変更
 - ・前田会長より、現在パート契約である小西事務員が希望する、パート契約から業務委託契約への変更についての説明が行われた。
 - ・樋渡理事より、
-経費節減などの理由から前の事務員が辞めた際、藤谷副会長がいろいろ調べて、常勤社員契約からパート契約に切り替えた。それをさらに業務委託契約に変えるべきなのか
-今後は対面開催が増えてくると思われるため、時間を掛けて審議したほうがいいのではないか
-誰にでも通用する契約内容になっているのか

- 今まで超過勤務が多かったというなら、その分を支払うこともできたのではないか
- 勤務場所に制限がなくなると会員からの電話対応ができるのかなどの質問が寄せられた。
- ・前田会長より、
-最近まで本人が業務委託契約とパート契約で2箇所の仕事をしていて、業務委託のほうがメリットが大きいため変更したいという強い要望がある
-十分な引き継ぎが無いまま、個人に依存しすぎており、この機会にマニュアル化の整備をしたいと提案されているなどの補足説明が行われた。
- ・青木副会長より、前任の事務員が辞めて以来、経理系のパート事務員が続かないこと、そのため青木副会長に常に後任探しなどの負担があったこと、事務員にもパート以上の負担が掛かっている経緯が述べられた。
- ・牛山理事より、大谷理事からも指摘があったが、業務委託料としては安すぎるが、この場で決めるべきなのかという質問があった。
- ・前田会長より、本人からの当初の提案より増額していること、これまでの毎月の支払いに比べて少ないわけではないこと、業務委託用に追加の機器が必要になることは無いこと、小西事務員との業務委託契約終了後は再度パート事務員を雇うこととなる予定であることなどが述べられた。
- ・大関監事より、業務内容に電話対応について書かれているので問題は無いが、勤務時間や場所を拘束しているのに業務委託という点が社労士としては問題であるとの指摘があった。しかしながら、受託者と雇用者からの希望を考えると、現時点では妥当であるという意見も述べられた。
- ・望月理事より、事務局に負担をかけないよう、業務を減らす努力も必要であるという意見が述べられ、前田会長からも、LINEの使い方や緊急メールの送付方法についての注意や、役員に対して締め切りを守るなどの協力が呼びかけられた。
- ・青木副会長より、経理系パート事務員への大関監事の多大なるサポートに対して、感謝の言葉が述べられた。
- ・小西事務員の業務契約について、パート契約から業務委託契約へ、5月1日からの変更が承認された。
- 2. ピンクリボンウォークの名義後援
 - ・前田会長より、「第19回ミニウォーク&ラン フォー プレストケア・ピンクリボンウォーク2023」の説明があり、後

- 援に合わせてHPにも掲載することが承認された。
- 3. 世界禁煙デー記念イベントの名義後援依頼
 - ・前田会長より、「World No Tobacco Day (世界禁煙デー) 記念イベント2023 in Tokyo シンポジウム (オンライン)」の説明があり、今年も名義後援することが承認された。
- 4. G7 環境大臣会合共同声明・改ざん「日本語訳」撤回申し入れの連名団体
 - ・前田会長より、国際婦人年連絡会で検討を要請された「放射線被ばくを学習する会」からの申し入れについて説明が行われた。
 - ・複数の役員から資料に書かれていることは正しいと思われるが、別の表現の仕方があるのではないかという意見が出され、今回は連盟団体になることは見送ることになった。

以上

公益社団法人日本女医会

(((理事会議事録)))

2023年度第2回理事会議事録

1. 日時・場所

- 1. 日時 2023年6月17日(土)
午後3時30分～午後5時30分
- 2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
- 3. 出欠席者

1) 出席者

| | | |
|----|-------|-------|
| 理事 | 前田佳子 | 青木正美 |
| | 藤谷宏子 | 磯貝晶子 |
| | 牛山元美 | 大谷智子 |
| | 木村友美 | 塚田篤子 |
| | 野村明子 | 樋渡奈奈子 |
| | 宮坂晴子 | 望月善子 |
| | 芳川た江子 | |
| 監事 | 大関ひろ美 | |

2) 欠席者

監事 村上京子

2. 継続審議事項

- 1. 創立120周年記念事業について (継続)
藤谷副会長より、5/31時点での収入と支出、寄附者の確認が行われた。
- 2. 2023年度ブロック懇談会について (継続)
芳川理事より、出席予定の役員、前泊し準備する役員などが発表された。11月開催予定であった青森は中止となったため、別の候補地を現在募集中である旨が述べられた。

3. 審議事項

1. 第68回定時総会の報告と反省 (継続)
 - ・芳川理事より、前日の懇談会を含めて、支部・本部連絡会、定時総会が無事開催できたことに対して、関係者への感謝の言葉が述べられた。
 - ・前田会長より、収支の書き方について指摘があり、次回修正したものを提出することとなった。また、公開予定の講演会について、一部音声の再録をお願いしている旨が報告された。
 - ・磯貝理事より、ハイブリッドテストについて、冒頭トラブルがあったが、会場の係の方が迅速に対応し、成功することができたとの報告があった。
2. 第69回定時総会について (継続)
 - ・芳川理事より、次回5/19(日)に東京で開催予定の定時総会について、2020年に対面からオンライン開催に変わった第65回定時総会において、新たに候補としていた会場についての説明が行われ、最新状況を問い合わせることとなった。
 - ・前田会長より、公開講演会の講師候補について検討する旨が述べられた。
3. 年度初めの退会者の会費について(承認)
 - ・藤谷副会長より、総会までに届け出のあった年度初めの退会希望者について、会長が認めた場合は当年度の会費を免除する提案があり、承認された。
4. 宮城県女医会からの公開講演会助成申請について (承認)
 - ・樋渡理事より、申請内容の説明があり、5万円の助成が承認された。
5. 群馬県女医会からの公開講演会助成申請について (承認)
 - ・庶務部より、申請内容の説明があり、5万円の助成が承認された。
5. 2023年3月、4月、5月会計報告承認 (継続)
 - ・塚田理事より、説明があり、2023年3月、及び4月、5月の会計報告が承認された。また、事務員の入れ替わりで3月の会計報告が遅れた旨のお詫びがあった。
 - ・前田会長より、3月の事業別収支明細参考資料について、一部予算と支出に差があることについての質問があり、次週の会計部会議で調べることとなった。
6. 2023年度第1回理事会議事録承認 (承認)
 - ・宮坂理事より説明があり、2023年度第1回理事会議事録が承認された。
7. 6月臨時メール審議議事録承認 (承認)
 - ・前田会長より説明があり、2023年度6月臨時メール審議議事録が承認された。

8. その他

- (1) 現代ぶろだくしょん新作映画への寄附について (承認)
 - ・前田会長より説明があり、5万円の寄附が承認された。
- (2) ブロック懇談会の旅費を理事会同様の扱いにする件について (承認)
 - ・前田会長より過去支払ってきたブロック懇談会の交通費について、役員等旅費規程の出張旅費の例として記載する提案があり、承認された。

4. 報告事項

1. 各部、NC報告
 - 1) 庶務部報告
 - ・芳川理事より新入会員と会員動静についての報告があった。
 - 2) 広報部報告
 - ・樋渡理事より、創立百二十周年記念号について、広報部及びIT部で検討した結果、編集作業と執筆の一部を外注化することになったことの報告と会長提案に基づく12ページの見積もり案が提示された。会誌249号と共に発送するため、通常よりスケジュールが前倒しになるため、担当役員への協力が呼びかけられた。
 - 3) 学術部報告
 - ・望月理事より、令和5年度の学術研究助成の応募状況について報告があった。「学術研究助成受賞者の軌跡」の寄稿が無い平成30年度、令和1年度の4名の受賞者について、意見が求められ、報告がない場合の返金規程を入れるなどの案が出され、会長と学術部の連名で催促状を送付することとなった。
 - 4) IT部報告
 - ・磯貝理事より、キャリア・シンポジウムの開催を1度だけのライブ配信から一定期間のアーカイブ公開に変えたいという木村理事からの要望が伝えられ、次回の理事会で方法・名称や配信期間を提案することになった。
 - 5) ナショナルコーディネータ報告
 - ・前田会長より、6月に開催される西太平洋地域のオンライン会議、国際女医会全体の会議について、次回報告予定であることが述べられた。
2. 各委員会報告
 - 1) ダイバーシティ推進委員会
 - ・木村理事より、キャリア・シンポジウムの収録は10/14(土)、前回同様に行うが、一定期間配信の後、アーカイブ公開したい旨の報告があった。また、より一般向けの内容にしていくため、「医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム」というタイトルの代案を次回理事会で提出する予定であることが述べられた。
 - 2) 長寿社会福祉委員会
 - ・芳川理事より、公開講演会の開催予定が12月の平日夜と発表されたが、開始時刻については、視聴者に高齢者が多いこと、講師が平日は診療があること、当日の事前リハーサルの所要時間なども検討し、次回理事会までに決定することとなった。
 - 3) 女性の健康支援事業委員会
 - ・樋渡理事より、今回のテーマは、前田会長からのアドバイスもあり、LGBT関連について考えているという報告があった。
 - 4) HP制作委員会
 - ・前田会長より下記の掲載報告があった。
 - 定時総会資料と公開講演会情報、各賞受賞者報告
 - 新コーナー「素敵な先輩」第1回、FM FUJI アーカイブ配信情報の追加、飯嶋陸先生によるWebセミナーの案内、女性の権利デーシンポジウム情報
 - ・磯貝理事より、群馬支部がHPを作ったという支部・本部連絡会での報告を受けて日本女医会HPにリンクを貼ったことが報告され、121年目の挑戦として各支部のHPとリンクを貼っていく、HPが無い支部には本部がページの作成作業を外注化する案が出され、叩き台を作ってみることになった。
3. 対外的団体活動
 - 1) 国際婦人年連絡会
 - ・前田会長より、5/31に開かれた全体会及び総会の報告があった。
 - 2) 国連NGO国内女性委員会
 - ・前田会長より、5/11、6/8に開かれた役員会の報告があり、7/6に婦選会館で対面開催予定である総会と近日公開予定のHPについて述べられた。
4. その他
 - ・前田会長より、送受信データの容量制限のために理事会資料が受け取れない役員に対してgmail等を取得するようお願いがあった。

以上

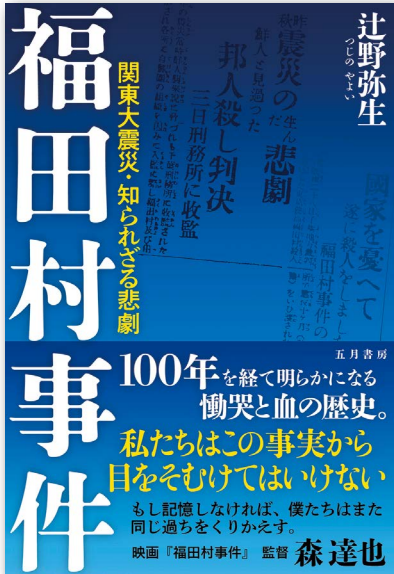
日本女医会会員の皆様へ

日本女医会HPの会員向けページである「正会員サイト」には、会員向けのさまざまな情報をアップしております。アクセスするには、会員であることの確認が必要です。ネット会員に登録後、「正会員サイト」をクリックしてください。「新規登録」画面が表示されますので、メールアドレスとパスワードを入れて送信してください。会員であることが確認できましたら、本部より確認メールをお送りします。



福田村事件 関東大震災・知られざる悲劇

辻野弥生 (著) 発行：五月書房新社 2,200円



● 五月書房新社のサイト
<https://www.gssinc.jp>

2023年9月1日で関東大震災発生から100年を迎えた。2013年に嵩書房より刊行された『福田村事件 関東大震災・知られざる悲劇』が増補改訂版として復刊された。さらにはドキュメンタリー映画監督の森達也の初の劇映画『福田村事件』と

して世に送り出されることとなった。

1923年9月1日11時58分44秒、相模湾沖を震源とするマグニチュード (M) 7.9の直下型大地震が関東の二府六県を直撃した。発生時間が昼時であったことからたちまち八方から火の手が上がり、強風に煽られて3日間にわたって燃え尽くされ甚大な被害をもたらした。ちなみに阪神・淡路大震災はM7.3、東日本大震災はM9であった。さて、地震発生の翌日からパニック状態になった民衆の間に「朝鮮人が井戸に毒を入れた」「日本人を皆殺しにしようと火をつけた」といったデマが広がった。政府が意図的にデマを流したとも言われており、9月3日には内務省が「朝鮮人は各地に放火し、不逞の目的を遂行しようとしている。鮮人の行動を取り締るように。(原文のまま)」という通達を出し、朝鮮人は殺しても良いという認識が広まった。こうして自警団や民衆によって多くの朝鮮人が虐殺され、朝鮮人と間違われた日本人も虐殺された。

「福田村事件」はそんな中で起こった。香川県から薬の行商に来ていた16人は千葉県東葛飾郡福田村で行商を終え、9月6日に利根川を渡って茨城県に移動しようとしていた。神社の境内で休んでいた一行を見つけた自警団が、四国弁で言語不可解であったことから朝鮮人と誤認し、9人を殺害してしまった。デマに煽られ事件を起こした福田村の住民の群衆心理からくる過ちは、現代でも起こりうることを認識しなければならない。20年前から構想を温めていたこの事件の映画化を果たした森監督は述べている。「忘れてはいけない。忘れてたらまた同じことをくりかえす。過去にあった戦争や虐殺よりも恐ろしいことがひとつだけある。戦争や虐殺を忘却することだ。」

新しい戦前と呼ばれる今こそ『福田村事件 関東大震災・知られざる悲劇』を読んでいただきたい。決して残虐ではない普通の人々が起こしてしまった残虐な事件、この事件の背景にある歴史を振り返ることが求められている。



● 映画『福田村事件』のサイト
<https://www.fukudamura1923.jp>

あなたの、いちばん近くにある安心。



QOLとは、クオリティ・オブ・ライフという意味。
クオールの、社名の由来です。

クオールは、一人ひとりの患者さまに信頼される調剤薬局として、
あらゆる地域社会の健康で豊かな生活に貢献します。

これからも私たちは、安心・快適にご利用いただける薬局をめざし続けます。

くらしを支える、良質な地域医療をすぐそばで。

QOL クオール薬局 グループ
Quality Of Life

2023年度 長寿社会福祉事業
オンラインセミナー

「楽しいオーラルフレイル予防」

日時：2023年12月11日(月) 12:00～
12月18日(月) 12:00

開催方法：YouTubeによるオンライン開催

講師：中澤桂一郎先生

(利根歯科診療所所長・歯科医師日本医療福祉生活協同組合連合会理事)

参加ご希望の方は、日本女医会のホームページのイベント予約ページ (<https://www.jmwa.or.jp/event-details/longlive>)にてご登録ください(詳しくは同封のチラシをご覧ください)。

右のQRコードから
もお申し込みいた
できます。



事務局より当日参加用のURLを返信いたします。

シンポジウム前日までに返信がない場合には申し込みメールにてお問合せください。

シンポジウム当日は、送信されたURLをクリックしてご参加ください。

第16回 ダイバーシティ
推進キャリア・シンポジウム

「多様なキャリアは面白い」

日時：2023年11月01日(水) 12:00～
11月07日(火) 12:00

開催方法：YouTubeによるオンライン開催

講師：小島玲子先生

(丸井グループ取締役上席執行役員CWO (Chief Well-being Officer) ウェルビーイング推進部長、産業医)

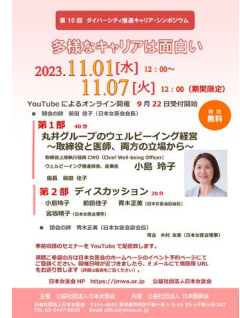
参加ご希望の方は、日本女医会のホームページのイベント予約ページ (<https://www.jmwa.or.jp/event-details/career>)にてご登録ください(詳しくは同封のチラシをご覧ください)。

右のQRコードからもお申し込みいただけます。

事務局より当日参加用のURLを返信いたします。

シンポジウム前日までに返信がない場合には申し込みメールにてお問合せください。

シンポジウム当日は、送信されたURLをクリックしてご参加ください。



会員動静

(2023年4月1日～2023年7月31日現在・敬称略)

| | 氏名 | 支部 | 卒年 |
|----|---------------------|-----|-------|
| 入会 | 古堅あずさ | 北海道 | 平成12年 |
| | 松本愛子 | 埼玉 | 令和1年 |
| | 曾根依子 | 埼玉 | 昭和60年 |
| | 若山貴久子 | 埼玉 | 平成16年 |
| | 前田啓子 | 愛知 | 平成15年 |
| | 加納麻弓子 | 神奈川 | 平成22年 |
| 退会 | 外園千恵 | 京都 | 昭和61年 |
| | 16名 (R4年3月末自然退会8名含) | | |
| 物故 | 東浦亨子 | 愛知 | 昭和34年 |
| | 高澤鞆子 | 青森 | 昭和40年 |
| | 佐々木和子 | 宮城 | 昭和33年 |
| | 松岡瑠美子 | 新宿 | 昭和47年 |

寄附者一覧

創立120周年記念寄附金につきましては別紙・創立百二十周年記念号に掲載しております。

編集後記

宇都宮での4年ぶりの対面総会は、会場とオンライン配信のハイブリッド方式でした。再会を喜ぶ会員の傍ら、IT部が非常な緊張感をもって配信に取り組んでいる姿に頭が下がりました。IT技術も日々進歩しており、オンラインセミナーでも新たな方法に順応できるか不安を感じることもあります。診療現場では、2024年秋に保険証が廃止され、マイナンバーカードによるオンライン資格確認が医療者側に求められる予定です。マイナンバーカード自体、発行手続き上のミスや想定外の問題が次々と生じ、拙速との批判もある中、ベテラン開業医師がデジタル化を断念し閉院を決めたとの報告も聞いています。セキュリティが強化され、より便利になるだろうデジタル化は患者も医師も願うところですが、できる限り、皆がついていけるような手厚い支援体制や十分な準備期間を望みます。(牛山元美)

日本女医会誌

復刊第249号 2023年9月25日発行

編集人 樋渡奈奈子 発行人 前田佳子
制作 あづま堂印刷齋
発行所 公益社団法人日本女医会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-19
ロワレル千駄ヶ谷202

TEL 03-6447-0820 FAX 03-6447-0821
<http://www.jmwa.or.jp>
e-mail: office@jmwa.or.jp

